

ZANDEN Model 120 の展開(62) —ベーターヴェン全集を聴く(62)—

1. 始めに

前報(61)に引き続き、ベーターヴェン全集を集中的に聴いていきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langevin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、ベーターヴェンのヴァイオリンソナタ、チェロソナタ、変奏曲などを聴いていきます。これらは、Y 氏から頂戴したものです。

ドイツグラモフォン MG9576

ヴァイオリンソナタ第 9 番イ長調

ヴァイオリンソナタ第 8 番ト長調

ウイルヘルム・ケンプ(ピアノ)

ユーディ・メニューイン(ヴァイオリン)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、前報(1)と同じく、TELDEC の逆相、第 4 時定数は Mid で聴いていきます。

ヴァイオリンソナタ第 9 番イ長調は、聴き飽きたと言えるくらいの馴染みの曲です。しかしながら、ケンプとメニューインのコンビは、そういった固定観念を打ち払うように清新であり、激しく情熱的な曲の表情を活かした演奏です。

ヴァイオリンソナタ第8番ト長調は、あまり聴く機会がない曲ですが、全体に軽快で速いパッセージにゆったりとしたパッセージが続き、再び速いパッセージに戻ります。

前報(61)と同様、ピアノが左側に、ヴァイオリンが右側に位置し、ピアノは豊かに響き、ヴァイオリンは艶やかに奏でられています。

4. まとめ

今回も、アナログアキュライザーを **TruPhase** の入力側と出力側にセットしたことに加えて LP-12 の軸受けをカルーセルに変更したことから、上記の2曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上